

「学位論文に係る評価の基準」

物理科学研究科

構造分子科学専攻・機能分子科学専攻

学位認定に際しては、専門分野における学識の深さと自立した研究者として創造的研究を遂行する能力を獲得していることを評価基準とする。その主要な判定材料となる博士論文は、当該分野の発展に大きく寄与し独創的で一貫した論理に基づく研究成果を報告することが求められる。

天文科学専攻

1. 天文学および関連する分野の観測的・理論的・開発的研究であること
2. 当該分野において独創的で新たな知見を付け加える研究であること
3. 単独で遂行した研究であること（但し主たる寄与をした場合に限り複数による研究でも可とする）
4. 学位論文の研究が、査読のある欧文学術雑誌に、主著者で発表されているか、学位授与後1年以内に発表されること
なお、博士の学位取得に関しては、学位審査において研究遂行能力が備わっていることを客観的に保証するため、天文科学専攻においては、博士論文以外に学術論文1編が出版済であることを要件としている。
 - ① この学術論文は、主著である、出版済み、査読論文であり、学位審査申請時に1編以上があることを原則必要とする。申請者はこの学術論文の写しを参考論文として添付するものとする。
 - ② 申請者は、予備審査申請時には、この学術論文の写しを添付するものとする。ただし、この学術論文がいまだ掲載決定に至っていない場合は、当該学術論文の投稿済み原稿であってもよいものとする。
 - ③ 前2項において、研究が特許出願に関係する内容等であるなど、これによりがたい場合は別途理由書を提出し、専攻長の許可を得なければならない。
 - ④ 第2項において著者がA、B、C順であるなど、申請者が主著者であることがただちに明らかでないときは、複数の共著者からの証明を付すものとする。

核融合科学専攻

博士学位論文は、研究科の理念に則って、核融合科学分野における以下の諸点について、専攻の審査担当教員と外部委託審査委員によって審査を行う。

1. 研究目的が明確で、(研究)成果に学術上意義があること
2. 研究の独創性があること
3. 専門分野に関する十分な知識と、国際的に活躍できる語学力を有していること
4. 学位論文の研究が、査読のある学術雑誌に筆頭著者で発表されているか、学位取得後に発表する予定であること

宇宙科学専攻

論文は、新規性、創造性、独創性を有し、学問の進歩に新たに重要な貢献をなすものと認められる宇宙理工学分野に関する学術的価値を有するものであることを評価基準とする。また、論文は、単独で遂行した研究もしくは主要な役割を果たした共同による研究に基づくものであることを要する。

試験においては、博士の学位の授与を受けようとする者が、国際的に活躍できるコミュニケーション力と当該研究領域全般に関して卓越した知識を持ち、独立して創造的研究を遂行できる能力を獲得しているかどうかを評価基準とする。